

私は、オーストラリアの暮らし・生活スタイルを通して、

**「どのような日本の商品があればオーストラリアの暮らしはも
っと快適になるか」**

という研究課題に取り組みたいと思います。

目次

健康と便利さを

- ①食事について
- ②お菓子について

日本の技術を伝える

- ①インテリアについて
- ②豊富なバリエーションを！
- ③アニメをもっと！

まとめ

動機

私は将来新しいものやサービスを海外に提供するため就職したいので、今回はそのシミュレーションの形で行って以上の課題に取り組みました。

健康と便利さを

① 食事について



現地では両親が共働きや片親と暮らす生徒が多くいました。
 私の家の場合も平日は子供より先に仕事に向かい夕方に帰ってくる日がほとんどで、
 夜に洗濯したり、次の日の食事を作ったりしていました。
 ホストマザーの手料理は、異文化を感じられとても美味しかったです。

しかしファストフードで済ませる日も多くあり、栄養の偏りを懸念しました。

そこで、日本で多く売っている「**おかずのインスタント食品**」又は、**冷凍食品**が必要ではないでしょうか。時間をかけずに、誰でも簡単に料理できますし、野菜が入っているものもあります。日本人にとってはベストとは言い切れませんが、現地の人は味が濃いものを好むので、味付けの濃いこれらの食品はぴったりだと考えました。



②お菓子について



オーストラリアのお菓子はとても美味しいです。
私は TimTam や SHaPES というお菓子が大好きです。現地では様々な味を購入できます。

しかし、日本よりお菓子の種類が少なく、同じ物が山積みになっていて、また箱売りであることが多く嵩張る物が多かったように感じました。

オーストラリアでは、部活制度はないので、放課後は友達や彼氏、彼女と過ごします。また、私が通った学校では、10時半ごろから長い休み時間があり、生徒は軽食を食べます。お菓子を持参する際はラップに包みます。

このように、お菓子を食べる機会が多くあるので、豊富なバリエーションを持つ日本のお菓子、特に持ち運べるタイプはそれなりの需要があるのではないのでしょうか。



日本の技術を伝える



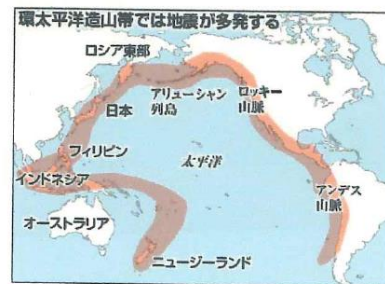
① インテリアについて

オーストラリアの家は木のぬくもりを感じます。

インテリアは特におしゃれで、写真のように棚にグラスを入れたり、植物や、思い出の品を置いたりして楽しんでいます。私がお世話になった家も、プレゼントしたお土産を飾ってくれました。

私も真似したくなりましたが、「いざ日本で!」となると、地震の多い日本ではちょっと怖いですね。ちなみにオーストラリアは、現在活発に活動している新期造山帯の環太平洋造山帯に属さないで、地震があまり起こらず、自分の好みのインテリアを思う存分楽しめると思います。

奇木細工や木彫りの熊など、木を基調とした日本の伝統工芸品がよく似合うのではないのでしょうか。



②豊富なバリエーションを！



上の写真はウォーナンブルで一番大きいホームセンターの文房具コーナーです。特にペンのコーナーは上の写真1枚分が全てです。日本のホームセンターと比べてどう感じますか？

現地のショッピングモールは建物こそ広く、必要なものは一通り揃っているのですが、商品の種類が少なく物足りなく感じました。

現地の学校の授業はタブレットやプロジェクターなどをよく使い、日本よりも文房具を使う機会は少ないと感じましたが、レポートを書いたり、ノートを取ることもありました。

日本の「こすると消えるペン」や「ドット入りのノート」など高品質な日本の文房具ブランドは熱心に勉強する現地の生徒を応援できると思います。



また「赤シート」や「身近なものをモチーフにした消しゴム」など、日本のユニークな文房具は注目を集めるとともに、日本の技術を知ってもらえるチャンスになると思います。

③アニメをもっと！

日本のアニメは今や世界中で人気で、アニメグッズのお店が並び秋葉原にはたくさんの外国人ファンが訪れますよね。

オーストラリアで日本語を学ぶ生徒たちも日本のアニメが大好きで、私より詳しく知っていることもあるくらいでした。

ウォーナンプールのショッピングセンターにも、**少ないものの日本のアニメコーナー**があり、ホストステューデントと作品について語り合い、仲を深めることができました。

当初は、**日本を身近に感じてもらえる**と思い、**アニメグッズ専門店**を出店することを思いつきました。

しかし、現地の人は日本の文化を良く思っているもののあまり興味のない人達も多かったです。これでは、店が成り立たなくなってしまいます。

ですので、例えば年に1回程度、アニメに限らず**「日本の商品を出品する市場」**を開催するのはどうでしょうか。



まとめ

今回の研修で、オーストラリアでは共働き世帯が多く、文化的にも家事に時間をかけないことが分かりました。また、友達や家族の誕生日を盛大に祝ったり、会話を頻繁にしたり、対人関係をとっても大切にし、自分が好きなものや思い出は目に見えるようにしておくことも分かりました。素晴らしい文化のある国だからこそ、日本の「もの」で、暮らしをもっと快適にできる日が来ると良いと思います。オーストラリアと日本の絆がもっと深くなることを願います。

参考文献

- ・ amazon.co.jp
- ・ to miya - s.com
- ・ www.meiji.co.jp
- ・ saruwakakun.com
- ・ mognavi.jp
- ・ nichireifoods.co.jp
- ・ akibaikelzaibiz
- ・ note.mu / kazokusbiyaki